

平成29年度小田原市文化創造活動担い手育成事業
おだわら城町アートプロジェクト
現代アート展＆ワークショップ

ART EXHIBITION WORKSHOP

旧瀬戸たばこ店 × 現代アート展 道行 一みちきー／足立篤史
モスキートハウス／硬軟

2017年11月23日(木)～26日(日) 10:00～16:00 (26日～15:00)

主催：おだわら文化事業実行委員会（小田原市／一般財団法人小田原市事業協会）

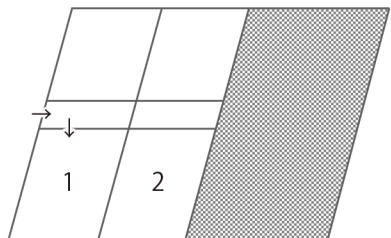


ART EXHIBITION WORKSHOP IN ODAWARA

旧瀬戸米穀店

1. Operation Crossroads

2. 炎舞



足立 篤史 Atsushi Adachi

主に紙、活字媒体（新聞など）を素材に制作。

それまで人間が経験した遠い昔の記憶の中にあるモノを今の時代に具現化している。

作品形態にこだわらず、様々な方法で表現活動を行う。日本国内だけでなく、海外でも勢力的に作品を発表。

1988 神奈川県横須賀市生まれ

2014 東京造形大学美術学科彫刻専攻修了

－ 個 展 －

2014 記憶 -Kioku- / OUCHI GALLERY/ New York

2016 醜美ノ記憶 / LOWER AKIHABARA / 神田

2017 月世界の小さな宇宙の夢 / JINEN GALLERY / 日本橋

－ グループ展 －

2014 第1回 CAF 賞入選者展 / TABLOID GALLERY／浜松町（入選）

2015 第18回岡本太郎 現代芸術賞 / 川崎市岡本太郎美術館／川崎（入選）

2016 都美セレクショングループ展「紙神」/ 東京都美術館 / 上野

2017 TAMA VIVANT II 2017 - ポガティブ -

/ 多摩美術大学 アートテイク・ギャラリー、パルテノン多摩

－ アートフェア －

2013 Affordable Art Fair Singapore/ シンガポール

Art Expo Malaysia 2013 / マレーシア

2017 EXPO Contemporary / ロサンゼルス

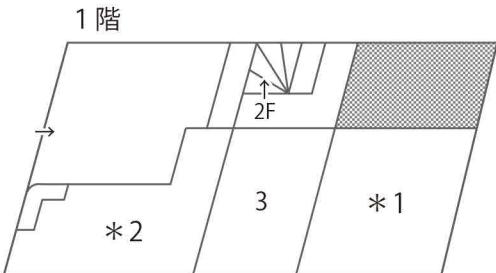
－ メディア －

2017 BS フジブレイク前夜～次世代の芸術家たち～

旧瀬戸たばこ店

3. ラストスモーカー

4. モスキートハウス



*1 おだわら城町アートプロジェクト
歴史的建造物活用事業の記録

*2 休憩処
(お茶を飲みながらおくつろぎください)

硬軟 Kounan

現代美術作家 千葉大二郎によるプロジェクト。2014年末始動。主に屋内外でのパフォーマンス・プロジェクトを中心に活動。速記技能検定6級所持。

— 個 展 —

2015 トリプルネットワークゲル / eitoeiko / 神楽坂

2017 トリプルショートハンド / eitoeiko / 神楽坂

— グループ展 —

2016 昼の市場 夜の市場 / 大東京綜合卸売センター

TRANS ARTS TOKYO / 東京都千代田区

KITAJIMA KOHSUKE 13～池と怪物編～ / カタ／コンベ

/ 東京都中野区

2017 玄玄天 / 福島県いわき市

BARRACK OUT / 東京都江東区

■ Curator

坂田 恭平 Kyohei Sakata

2016 年多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程絵画専攻日本画研究領域修了。

同年「SOEL art office」設立。アートによるクリエイティブの創出と活用を目的として、展覧会事業を中心としたキュレーションと現代美術作品の制作・発表を行う。

湘南のクリエイティブスタジオ「1761studio」を拠点に活動。



本展は小田原市文化創造活動担い手育成事業として、旧瀬戸たばこ店と旧瀬戸米穀店で若手アーティストによる現代美術展を開催する。硬軟による「モスキートハウス」をたばこ店で、米穀店で足立篤史による「道行 - みちき -」をそれぞれ個展形式で展示する。

昨今の現代美術展において、美術館やギャラリーといった場所から離れて、古民家や廃校、劇場といった、美術作品の展示専門ではない建造物で開催されることが多くなった。この背景には、アーティストの表現が多様化しつつあることと、全国的な芸術祭の林立によって行政や自治体が施設活用を推進していることが挙げられる。これらで展示される作品のほとんどは「インスタレーション」と呼ばれ、作品が空間と調和し、建築物の本来持つ歴史や時間制を明らかにすることを良しとしている。

旧瀬戸たばこ店で展示する硬軟は、煙草の増税や分煙、嫌煙化によって年々減少している喫煙者を未来の絶滅危惧種と捉え、その姿を忌み嫌われながらも何万年も同じ姿で生き続けてきた蚊と重ね合わせ、コハクになることによって価値が逆転する構造を予見する。さらに、これらの駆逐手段として蚊取り線香を蛍光塗料として、喫煙所での路上演説による政治的弾圧を映像記録として「発光」させることによって、本来存在しているはずの駆逐されるべき対象である喫煙者と蚊を想起させる。

旧瀬戸米穀店で展示する足立篤史は、倉庫の天井高を利用して新聞紙によって作られた式神が降り注いでいる空間を作り上げた。そこへ、タイプライターを中心に巻き起こる式神の竜巻に向かって、3隻の戦艦が舵を切っている。これらも全て新聞紙で作られ、戦時中といった、それぞれの戦艦が歴史的に製造された当時の記事が使われている。文字という呪術が刻まれては破棄され、輪廻転生のごとく生死を繰り返す再生紙によって作られた作品群は、歴史化していく情報によって物質的強度が担保され、その存在感によって見る者を圧倒する。

硬軟の実体を消す作品の制作手法と、足立の質量を強調する空間構成という対極の位置にありながらも、どちらも建築物の空間が本来持っている質量的、時間的な余韻を活かし、普段の古民家の景色を一変させている。これこそが現代美術の持つ力であり、視覚的情報を変えることによって鑑賞者に多角的な視点と気付きを与える、豊かな想像力へと導いていくであろう。